

## 当院における炭酸ガス造影法の有用性

【目的】閉塞性動脈硬化症(ASO)の診断には、造影 CT や血管造影法などがある。これらの診断では、造影剤を使用するため造影剤の腎毒性やヨードに対するアレルギー反応の問題がある。造影剤の使用量を制限したい症例に対し、炭酸ガスを用いた造影法の報告がある。当院でも、これまで 19 症例の下肢の診断・治療に炭酸ガス造影法をおこなっている。今回、当院における炭酸ガス造影法の状況について報告する。【対象】2013 年 6 月～2014 年 6 月までの血管造影法に炭酸ガスを用いた 19 症例(患者数 16 名)を対象とした。平均年齢は、 $69.8 \pm 10.2$  歳。男性 13 名、女性 3 名であった。【結果】炭酸ガスの 1 回あたりの注入量は  $20 \sim 40\text{ml}$  で、平均使用量は  $187.8 \pm 115.3\text{ml}$ 。造影剤の平均使用量は、 $60.8 \pm 46.4\text{ml}$  であった。炭酸ガス造影時に下肢疼痛により、炭酸ガス造影を中断し通常造影剤を用いた造影法に切り替えた症例が 2 症例あった。炭酸ガス造影法は、コントラストの関係上、腸管のガスと重なると造影が見えにくい欠点があるが、画像を階調反転させることで病変部を見やすくすることが可能であった。【結論】下肢の診断・治療の際に炭酸ガス造影法をおこなった。下肢の疼痛を訴え、途中で通常造影法に切り替えた症例もあったが、それ以外では副作用や合併症は見られなかった。炭酸ガス造影法は、造影剤を使用しないで治療を終えることが可能なことから、造影剤アレルギー患者や腎機能が低下した患者の下肢の診断・治療に有用である。